学校法人イーエスピー学園　専門学校 ESP エンタテインメント福岡

2023 年度　学校関係者評価 報告書

（基準日 2024 年 3 月 31 日）

・学校関係者評価の概要

【体制】本校では音楽、芸能等の設置学科に関連する福岡県内の企業と共に、地域活動団体、卒業生を評価委員とした「学校関係者評価委員会」を組織することとします。

【実施方法】学校関係者評価委員会では本校職員で組織する自己評価委員会により作成された「自己評価報告書」に基づき、評価項目である学校の運営状況、教育活動状況、学修成果として卒業生の進路の状況等を報告します。学校関係者評価委員会は報告書の内容を受け、客観的な視点から現状を点検・評価します。

【方針】本校職員以外の学校関係者評価委員会を組織、実施することによって、透明性を高めると共に学校に対しての理解、連携、協力による「改善」を図ることを基本方針とします。

・学校関係者評価委員会

専門学校 ESP エンタテインメント福岡の学校評価実施規程に基づき、次に掲げる区分から校長が委嘱する委員により構成します。

(1) 関連業界等関係者　２名以上

(2) 卒業生　１名以上

(3) 地域活動団体または在校生の保護者　１名以上

松下　典由	合同会社 mou music	関連業界等関係者	出席
椎木　辰哉	株式会社スタッフ	関連業界等関係者	出席
松田　康宏	株式会社ランド	関連業界等関係者	出席
藤本　正明	特定非営利活動法人 SOS 子どもの村 JAPAN	地域活動団体	出席
石坂　勇人	卒業生（第 4 期生）		出席
檍　和男	専門学校ＥＳＰエンタテインメント福岡	学校長	出席
明永　龍騎	専門学校ＥＳＰエンタテインメント福岡	総務/教務科　議事進行	出席
中嶋　美優	専門学校ＥＳＰエンタテインメント福岡	事務局　議事録	出席

・報告書

学校関係者評価委員よりいただいた意見等の要旨をまとめ本報告書にとりまとめました。

1　教育理念　目的　人材育成像

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

理念・目的・育成人材像は定められているか	4
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
社会のニーズ等を踏まえた将来構造を抱いているか	4

・教育理念、目的、育成人物像を定め、パンフレット、ホームページ等に明記することで、誰でも閲覧可能な状態としている。

・関連企業から求められる人材、求められる知識技術を十分にヒアリングし、現代社会のニーズに合った目的と育成人物像を設定している。また、それらを学科毎に詳細に設定しているため、より専門分野に特化した内容となっている。同じ音楽芸能分野でありながら

学科毎に適性の異なる職種を目指すため、この詳細設定は非常に的を射たものと自負している。

・関連企業との連携により、業界のニーズを取り入れたセミナーを随時実施。移り変わりの早い音楽芸能分野の最先端技術・知識を常に取り入れ学生に提供することを一番の特色としている。

・社会のニーズに対応するため、分野別実習という学科を越えた選択授業を実施し、学生自らが将来像を描ける特色あるカリキュラムを準備している。

・福岡という地域性を考え、様々な技能が幅広く学べるスタッフ総合コースの設置に向けてカリキュラムの整備を行うなど、地元業界のニーズに合わせたコース編成を常に行っている。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からのご意見等】

●明確な理念・目的・育成人材像を定義して、その実現に向けて取り組みを行っていらっしゃると感じました。

●自分自身も人間育成を伝えたいと思っており、学校内では教員・職員ともにそれができていると感じております。

●企業としても福岡という地方の土地柄、専門職のみの知識や技能だけでなく、様々な場面で活躍できる人材を求めているため、専門技術だけでなく多岐にわたって活躍できる人材の育成を期待しています。

【改善方策等】

ご意見いただいたとおり、地域の企業様からも求められている関連業務の幅広い知識を持った人材を育成するために、次年度からは「音楽スタッフ総合コース」を開設する予定でございます。今後も業界の変化やニーズに適応できる人材の育成に努めてまいります。

また、学生自身にもホームルームなどを通して教育理念や業界のニーズに沿った育成人材像の理解を促してまいります。

2　学校運営

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4
運営方針に沿った事業計画を定めているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化し有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

・理念、目的、育成する人物像に沿った運営方針を職員会議によって定め、学科部署課毎に経費策定を行っている。全体像が見えたのち事業計画を定め文書化している。

・意思決定機能については規則で明確になっていることと、現場で判断が必要なことの区分があいまいな部分があるため、改善を実施する。

・人事考課制度については、被評価者の納得感、課題の認識と目的意識及びモチベーションの向上を目標に改善を加えた。

・イントラネットを利用したネットワークシステムを構築し、県外の姉妹校を含め連絡事項やスケジュールの共有といった社内連絡をスムーズに行うことができている。

・学生情報管理のシステムを刷新した。管理はしやすくなっているが、システムの利用方法の熟練度はさらに高めていく必要がある。

・社内通信環境のインフラについては適宜見直しを行い、より安定した環境の整備に努めている。

・学内ではGoogleアプリの「Classroom」を積極的に活用し、授業に関する情報を中心に、学生生活や就職、デビューに関する情報発信を行なっている。

・学校運営に必要な部署課として事務局、教務課、広報課、学生支援課等の組織を整備し、それぞれの役割を基に業務遂行にあたっている。

・部署課毎に運営会議を毎週開催し、教具等の上申やイベント立案等の計画プレゼンテーションを経てそれぞれの会議内で意思決定している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からのご意見等】
●学内のインフラは年々安定してきていると思います。スムーズなシステムだと思います。
●情報システム化等による効率化のより良い構築に努められることを期待しています。
●福岡校としての取組を通じて人事考課制度の改善を行ったとのことですが、教育業界自体の難しさから、給与等への反映が充分にできないことが起因となり「4」にはなりづらいとの自己評価は適切と感じました。

【改善方策等】
学内インフラ・情報システムに関しまして、中長期的な計画を立て、時流の変化に即座に対応できるよう引き続き努めてまいります。また、ハード面だけでなく、システム使用者のスキルアップができるよう、社内研修の場などを設けていく予定でございます。
少子化の中、教育業界の難しさは感じつつも、人事考課が全教員・職員の納得いくものとなるよう、本部人事部と共に人事考課制度の運用を丁寧に説明しつつ行っていく所存でございます。

3　教育活動

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
学科毎に修業年限に対応した教育達成レベルを明確にしているか	4
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
教育課程について外部の意見を反映しているか	4
キャリア教育を実施しているか	4
授業評価を実施しているか	4
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3
作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4
資格取得の指導体制はあるか	4
資格要件を備えた教員を確保しているか	4
教員の資質向上への取組を行なっているか	4
教員の組織体制を整備しているか	4

・学科毎にディプロマ・ポリシーと教育目標を定め、それに基づきカリキュラムを策定している。

・成績評価と修了認定基準を明確化し年度初めのガイダンスで学生に説明の上、データ共有し各基準に沿った運営をしてきた。

・学校評価委員会を毎年実施。それ以外でもインターンシップやオーディションなどで業界とのつながりを強化し、職員が教育界と業界をつなぐ努力を続けている。

・授業評価について、学生へのアンケートを学科ごとに年2回程実施。学生のストレートな意見を収集し、講師へのフィードバック後、講師への指導やカリキュラムの改善を行った。

・成績評価の取り扱いについて基準を定め、適切に運用しているが、定めている内容に晦渋な箇所があるため、より明快化し学生への共有を行う。

・年間授業計画において知識技術のインプットとアウトプットが、綿密に練られたバランスで実行できている。期間毎に蓄積された知識技術の発表会を開催。教職員や保護者が学生の成長を確認できる環境を作っている。

・資格試験の情報を全学生対象に告知する他、各コースに特化した資格に関しては授業内で対策を行うなど、資格取得率の向上に向けて指導体制を整備している。

・教員の資質向上に関して、講師会の内容を見直したうえで定期的に開催。コース別で担当教員を集め、指導のノウハウを共有するなどの取り組みを行っている。

・新任教員や教員の担当授業の変更があった際の他教員への告知を徹底する等し、教員間連携をさらに高めていきたい。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からのご意見等】

●人間教育的な幅広い視点で学生たちの士気を上げるようなご指導を期待しています。

●技術や能力はもちろんのこと、社会人として一緒に働ける人材を育てていただきたい。

●カリキュラム一つでも学生に沿った目標設定やケアができるのが専門学校という機関だと思うため、学生個人が目標達成や成功体験を積み重ねることで人間形成にも繋がるような指導を期待している。

【改善方策等】

2024年度からクラスごとに担任職員を配置し、ホームルームの時間内で道徳的な指導を行う機会を設けました。専門技能を持つだけでなく人間として成熟した人材を輩出できるよう、一層努力してまいります。
また、本校は少人数制授業を採用し、一人ひとりの目標に合わせた指導ができる体制を作っております。今後も教職員一体となり、学生のフォローアップ体制を強化してまいります。

4　学修成果

【自己価結果、具体的な状況(抜粋)】

就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
卒業生の社会的評価を把握しているか	4

・今年度の求人数は353件、就職率は91％と高い水準をキープしている。

・キャリアサポートセクションという専門部署からのGoogleクラスルームを利用して、全学生へ求人の案内を実施している。

・インターンシップに関しても9件の参加(昨年度は1件)と、積極的な参加を促した結果が出ている。

・学生には独自ドメインの個別メールアドレスを付与し、就職活動で使用することができる。

・就職希望者全員に、就職に関する準備、スケジュール、注意事項等の詳細をまとめたオリジナルのキャリアガイドブック手帳を配布している。

・1年次の1月に就職に関するキックオフガイダンスを行い、就職に対する意識付けを行っている。音楽芸能スタッフ科だけでなく、就職を検討している学生は学科を問わず全員参加可能。

・卒業生の就職先の企業や所属先のプロダクションと連携をとり、卒業生の活躍情報をいただいている。また卒業生に対しても就職情報やオーディション情報を在学生同様に共有している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●ガイダンスが良い意識づけになっていると思います。

●現場で即戦力として必要な講習や基本的な作業能力などは特に学生のうちに取得していただきたいため、学校として今後も真剣に取り組んで行っていただきたいと思います。

●コミュニケーション能力や情報をシビアに収得していく能力は、ぜひ在学中に培っていただきたい。

●就職先の企業とのコミュニケーションをより多回数でされると良いのではと思います。

●インターンシップの人数が増えているとのことですが、成果の一面がある一方で人材不足の社会環境の中、企業側の単純な労働を補足する側面にならないように気を付けたほうが良いと感じました。

【改善方策等】

現場で必要な免許や資格の取得に関して、内部・外部を問わず講師を招聘し講座を開催する等の取り組みを行っております。新たにできる免許・資格にも対応できるよう、業界情報の収集を怠らず行ってまいります。学生の就職した企業様やインターンシップを受け入れていただく企業様とのコミュニケーションに関しては今後の課題といたしまして、私共からの情報発信の頻度を見直すなど、信頼関係を構築できるよう努めてまいります。

5　学生支援

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
退学率の低減が図られているか	4
学生相談に関する体制を整備しているか	4
留学生に対する相談体制を整備しているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
保護者との連携体制を構築しているか	4
卒業生への支援体制を整備しているか	4

・就職支援のキャリアサポートセクションと、デビュー支援のデビューサポートセクションにより、地域の情報収集はもちろん、東京、大阪に設置する姉妹校の求人情報、オーディション情報の共有を積極的に行い学生に向けてチャンスの拡大を図っている。

・定期的に学生との個別面談を開催し、学生と教職員間で概ね良好な関係を築くことができている。学生から受けた守秘以外の退学等に関する相談事項は、教職員間で共有し改善に向けての対策を検討する体制がある。

・授業巡回、欠席者への連絡及び保護者への連絡を通して、長期欠席からの退学者を出さないための取り組みを行っている。

・ESP学園特待生奨学金制度という学校独自の奨学金制度を整備している。

・学生には奨学金制度や修学支援制度などを説明するガイダンスを随時開催している。

・年度始に全学生を対象とした健康診断を実施している。

・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して居住情報の提供に努めている。

・学生の外部イベント実習やライブ活動、ボランティア活動については、公欠願を提出すれば出席扱となる制度を整えている。

・保護者、卒業生には教務課を通じていつでも相談できる体制を整えている。また保護者には年間2回成績通知書を送付し、成績・出

席率を共有している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】
●多様なバックグラウンドや年代毎のカルチャーの違いから生じるギャップを教育で補完することは重要だと感じました。

【改善方策等】
ご指摘いただいた通り、学生の悩みの内容は多岐にわたります。各クラス担任教務職員が中心となり、学生の悩みの原因や対策を精査し、段階的に対応するフローを確立してまいります。

6　教育環境

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
学内外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

・実習授業で使用する機材に関しては同業界において、定番から最先端のものまで幅広く設置し考えられる中で最適な環境を提供できている。

・イベントのスタッフ研修参加を中心としたインターンシップ制度を実施している。学生の大きな現場経験になるだけでなく、貴重な職業見学の場となっている。

・今年度、外部イベント研修は学生対象で12回の実施であり、音楽芸能スタッフ科の学生総勢60名以上が参加した。昨年度の9回を上回る実施回数となった。

・例年海外に設置している姉妹校への研修旅行を再開。学生にとって有意義な研修となった。また、今年度から韓国の芸能事務所が運営するアカデミーへの研修旅行も開催。今後も世界情勢を見つつ、新たな学びの機会を提供できるよう努めていく。

・安全管理に関する制度を定め、ファイル「安全管理等資料・防火管理等資料」としてまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。適宜内容も見直しているが、来年度はさらに詳細な対応を記載したものに改良予定である。

・火災防災組織を整備し年2回の避難訓練を実施、学生に向けた避難経路の確認と防火防災に対する意識付けを行っている。

・危機管理委員会を設置し、事故・災害発生時の指示系統を明確に定めている。

・全学生を対象とした学生災害傷害保険、学校としては学校賠償責任保険に加入している。また、インターンシップ賠償責任保険等必要に応じた保険に適切に加入している。

・校舎内は可能な限り段差をなくし、点字ブロック、バリアフリートイレ、エレベーター等を設置している。

・定期的に学内の点検を実施し、安心安全な学校を維持している。

・図書室に関して学生の要望に基づき冊数を増やしていくことで、興味に基づいた専門分野の学習支援を行っている。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●海外研修の費用負担について、奨学金や補助金などの制度があると良いと思いました。

●海外の生のエンタメを体感することはとても有意義だと思いますし、その経験は様々なところでも役に立つ経験だと思います。

●海外研修に参加した学生の体験談などが聞けるフィードバックの機会があると、参加できなかった学生にもより良いと思います。

【改善方策等】

コロナ禍で中断していた海外研修ですが、再開はできたものの、社会情勢により参加費用が以前より高額になりました。ご意見をいただいた通り、我々といたしましても海外のエンタテインメントに現地で触れる機会というものは、学生にとって貴重な経験になると考えております。海外研修に向けた独自の奨学金や、参加できなかった学生への学びの共有方法など検討を進めてまいります。

7　学生の募集と受入れ

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4
入学選考基準を明確化し適切に運用しているか	4
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
経費内容に対し学納金を算定しているか	3
入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4

・高等学校等の進路説明会へ参加し教育活動等の情報提供を定期的に行っている。

・学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパス開催に関して、開催回数の効果的な設定、体験授業の内容を充実させること、学校説明会の内容を充実させることを常に議論してきた。学校説明会・オープンキャンパスをオンラインで開催するなど、様々な方法で学生との接触の機会を増やしている。

・オープンキャンパス開催時には必ず来校者アンケートを実施、オンラインにおいても、オンラインアンケートを実施し、次回開催に向けてアンケートの内容から問題点があれば検証し改善を行ってきた。

・入学選考に際し、入学した後のミスマッチを防ぐためにも、作文や面接を通して入学生の志向性を確認する精度を高められるよう努めている。

・社会のニーズに合わせて、募集状況を鑑み専攻や授業内容の変更を行っている。

・出願後の入学辞退者への授業料返還に関して、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。

・入学に関しての選考基準を明確に定め、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。募集要項に沿った運用を年間通して行ってきた。

・現在の物価高が続く中、学納金は据え置いている。しかしながら、その中でよりよい学びの場を提供するためには学納金の見直しが必要となる可能性はある。学生の負担もしっかり考慮し、検討を続けている。

・学生募集活動の主要ツールとなる学校案内、募集要項等を作成し、学科毎の教育活動、学習成果等について明確に紹介している。また、ホームページでは学校案内以上の詳細内容を紹介し、あわせてSNSを積極的に活用することで学校生活におけるタイムリーな情報を発信している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●学費については円安問題とリンクする点が多々あるかと思いますが、より平等なホスピタリティを個々の学生達に寄与していただきたいです。

●学費は現状据え置きとのことですが、エンタメ業界全体の物価高・単価高といった事情も理解いただきながら、引き続き考慮と検討をいただきたい。

●海外からの留学生や需要が増えているとのことでしたので、経営の一つのオプションとして育っていったらよいと思います。

【改善方策等】

現状、学費は据え置いておりますが、我々といたしましても、よりよい学びの場を維持することが第一義と考えており、そのためにはやむなく学納金の見直しが必要となる可能性もございます。その際は丁寧に説明を行わせていただく所存でございます。
留学生の受け入れ態勢につきましても、福岡という地の利もございますので、積極的に整えてまいります。

8　財務

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3
教育目標の整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
予算及び計画に基づき適切に執行管理を行っているか	4
私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4
私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	4

・自己資金で設備投資を行うなど、財務基盤は安定している。

・継続的に財務分析を行ない、財務基盤の安定を図っている。

・事業計画の予算に対して、決算で大きな乖離は生じていない。
　予算執行にあたっては上申書、立案書などを理事長が最終承認を行う体制を執っている。

・監事による監査を実施し、理事会において報告が行われている。

・財務情報を当学園ホームページに公開を行っている。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●厳しい社会情勢であるとは思いますが、学生が安心して学ぶ為にも、引き続き安定した財務運営を期待します。

【改善方策等】

・学生が自身の目標に向けて集中して学べる環境をつくる為に、資金面で安定した財務体質を維持していきます。

9　法令等の遵守

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

法令や専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行っているか	4
学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を実施しているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4

自己評価結果を公表しているか	4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価結果を公表しているか	4
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4

・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。

・自己評価実施に関して学則に記載し専修学校の義務であることから、開校初年度より実施し公表している。

・毎年学生アンケートを実施し、カリキュラムの構築や講師の指導等に役立てている。

・学校関係者評価は「学校関係者評価報告書」としてホームページに掲載し、広く社会に公表している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●法令等を順守した運営をなさっているとのことで、引き続き透明性の高い組織運営を期待します。

【改善方策等】

自己評価に続き、学校関係者評価の組織体制を整備し評価を実施しています。今回の評価に基づき改善が必要な事象に対しては、真摯に取り組んでいくことを教職員間で確認しています。この評価は学校関係者評価報告書としてホームページに掲載し、広く社会に公表することとします。

１０　社会貢献　地域貢献

【自己評価結果、具体的な状況(抜粋)】

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

・県内高校の軽音学部活動支援として校内ライブホールの使用提供、学生スタッフの協力等により、エンタテインメント業界を目指す高校生への支援企画等の開催を計画し、実施した。

・地域貢献のためのチャリティライブや公開セミナーを開催。一般の方から広く参加者を募った。

・学内に募金箱を設置し、社会貢献の一環として子ども保護NPO法人等ふたつの団体に寄付をしている。また、募金活動により学生に対して社会貢献の意識付けを行っている。

・ボランティア活動が授業と重なる活動開催日となった場合は、公欠として認め学生が参加し易い状況となっているが、ボランティア活動に関するポスターの掲示等は行ったものの、参加者はあまりいなかった。ホームルームなどでの告知を含め、奨励していく。

・高校からの要請により教育訓練としての楽器実技等レッスンを往訪・来訪にて再開。当校の持つノウハウを高校生に提供している。

【学校関係者評価】適切　5/5　不適切　0/5

【委員からの意見等】

●国内でも音楽ジャンル問わず、数多くのチャリティイベントが実施されているため、生徒の社会貢献意識の向上のために、過去のチャリティライブ映像の実例紹介があればよいと思います。

●ボランティア活動の奨励をぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

【改善方策等】

より良い学校運営は地域の方々のご協力あってのものと考えております。引き続き学内の設備を活かしたイベントを開催し、我々の活動を知っていただく機会をつくってまいります。また、学生への意識付けの為にも、授業の際に各地のチャリティイベントやボランティア活動について紹介を行うなど、積極的なボランティア活動の奨励を行ってまいります。